

Excelのセキュリティ設定について

- DSmartPro のデジタル署名を Excel の「信頼できる発行元」として追加する手順を解説します。
- 古いバージョンの Excel では DSmartPro のデジタル署名を認識することができないのでご注意ください。

この稿では DSmartPro のデジタル署名をお使いの Excel の「信頼できる発行元」として追加する手順について解説します。DSmartPro では Ver.7.928 (2017年11月) 以降、Microsoft Root Certificate Program Members の COMODO RSA Code Signing CA 発行のコードサイン証明書によるデジタル署名を備えております。(詳細は DスマNEWS Vol.40 をご参照ください) DSmartPro のデジタル署名を Excel の「信頼できる発行元」として追加することにより DSmartPro をフリーパスで起動できる一方、デジタル署名なしの信頼性が低いプログラムを停止することができますので、安全性が向上します。お客様のセキュリティポリシーに従いご利用ください。

【重要】

DSmartPro のデジタル署名を適用可能な Excel バージョン：**Excel 2010 SP2 以上 (バージョン14.0.7015.1000 以上)** となりますので、事前にご確認ください。

Excel 2010 SP1 以下のバージョンではデジタル署名を認識できません ののでご注意ください。

※ DSmartProでは SHA-2(SHA256) 証明書を用いております。SHA-2(SHA256) 証明書は2010年頃から旧形式の SHA-1 証明書 (SHA-1は 2016/12/31に廃止) に代わり普及してきましたが、古いバージョンの Excel では認識されません。

※ Excel 2010 のバージョン確認方法：

- ① Excel 2010 を開く
- ② [ファイル] タブで[ヘルプ] をクリックする →表示例) バージョン：14.0.7173.5000 (32ビット)
- ③ 「バージョンと著作権の追加情報」 をクリックする →表示例) Excel 2010 (14.0.7173.5000) SP2 MSO (14.0.7173.5000)
Excel 2010 SP2 のバージョン番号は 14.0.7015.1000 以上
Excel 2010 SP1 のバージョン番号は 14.0.6029.1000 以上で 14.0.7015.1000 未満
Excel 2010 SP無し のバージョン番号は 14.0.4763.1000 以上で 14.0.6029.1000 未満

※ 別の方法として、Excel セキュリティセンターで「信頼できる場所」として DSmartPro のディレクトリを設定する方法もありますので合わせてご検討ください。

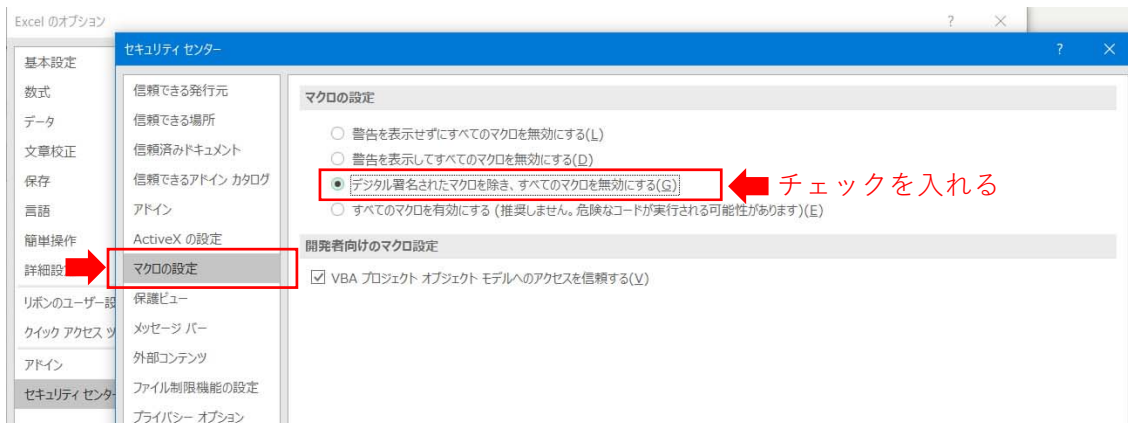
※ デジタル署名を認識できないExcelをお使いのお客様には、デジタル署名なしのプログラムを支給することが可能ですのでご連絡ください。

(2/4～4/4頁に続く)

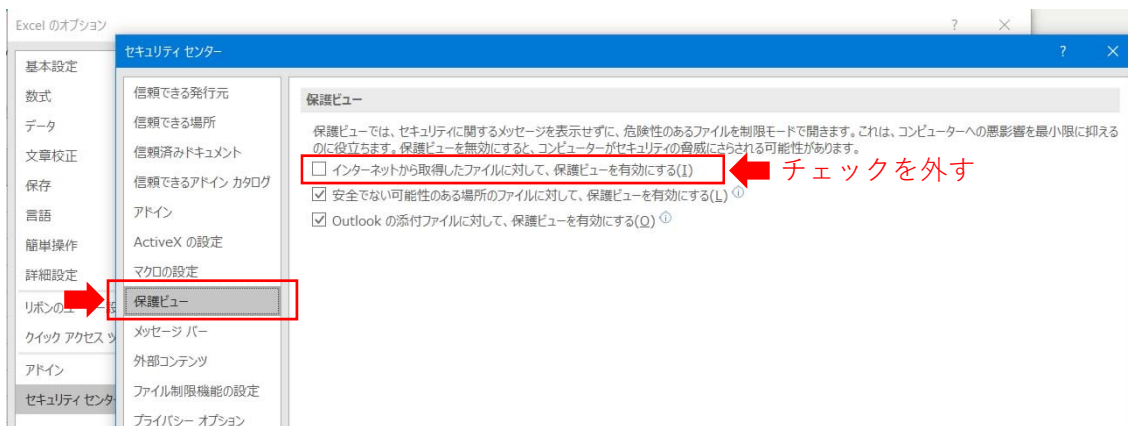
DSmartPro のデジタル署名を Excel の「信頼できる発行元」として追加する手順

以降 Excel 2016 での説明となります。（他のバージョンでもほぼ同じです）

- ① Excel を開き「ファイル」→「オプション」→「セキュリティセンター」の画面で「セキュリティセンターの設定」をクリックする。
- ② 「マクロの設定」をクリックして、「デジタル署名をされたマクロを除き、すべてのマクロを無効にする」にチェックを入れて「OK」をクリックする。



- ③ 「保護ビュー」をクリックし、「インターネットから取得したファイルに対して、保護ビューを有効にする」のチェックを外し「OK」をクリックする。



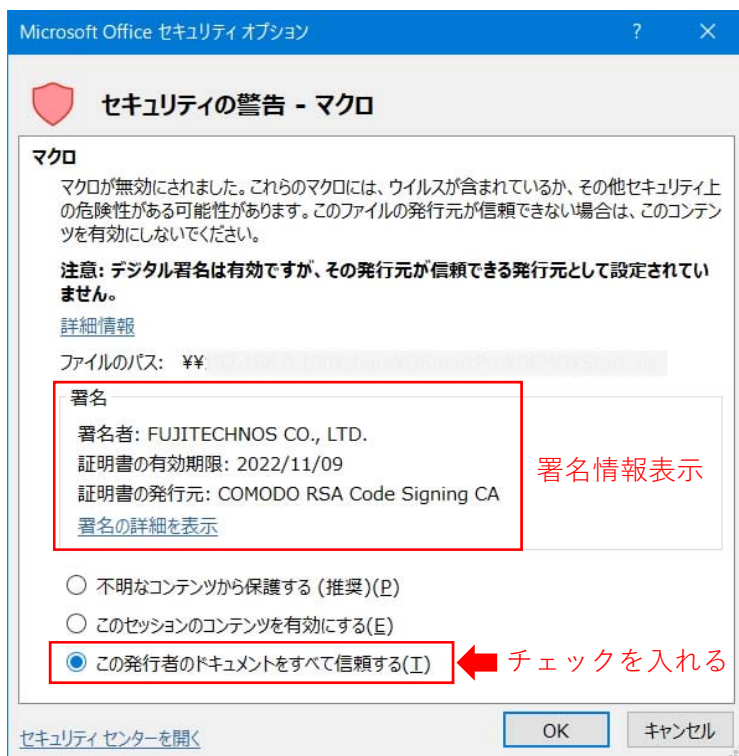
- ④ 「セキュリティセンター」を「OK」で閉じ、Excel を一旦閉じる
- ⑤ DSmartPro を起動する
- ⑥ 「セキュリティ警告」が表示されマクロが無効化される。「ファイル」または「マクロが無効にされました」をクリックする。



⑦ 「コンテンツの有効化」 続いて「詳細オプション」 をクリックする。



⑧ セキュリティオプションの画面が開くので「この発行者のドキュメントをすべて信頼する」にチェックを入れる。



⑨ DSartPro が起動する

⑩ ①と同じ手順で「セキュリティセンター」 → 「セキュリティセンターの設定」を開き「信頼できる発行元」を表示させ「FUJITECHNOS CO., LTD. / COMODO RSA Code Signing CA」が追加されたことを確認する。



⑪ DSmartPro を終了する

以後、DSmartPro はフリーパスで起動するようになる。

(ご参考)

デジタル署名されていない他のマクロプログラムを使うことが有る場合には、上記①～⑪を実施後、再度「マクロの設定」において「警告を表示してすべてのマクロを無効にする」を選択します。

この設定により DSmartPro はフリーパスで起動し、他のマクロプログラムは一旦停止後、有効にすることが可能になります。

